

症例3

がいぜん 咳喘

患者：40歳・男性

症状

現症：初診日は1993年3月20日。咳とゼイゼイと息切れする状態が10日余り続いている。喘息を患い20年余りになる。頻繁に反復的に発作が起こる。何日か前に感冒にかかり、感冒が今回の喘息を誘発した。咳・ゼイゼイとした息切れ等の気虚症状が現れるが、痰はない。自覚症状として、口内・鼻腔内が乾燥し痛み、熱感を帯びている。鼻と唇が乾燥し赤く熱感があり、痛みを伴う。顔色は暗紅色で身体は痩せている。心煩[イライラ]のために睡眠は不安定である。

脈診：細数脈

舌診：紅・瘦・乾燥舌

治療

弁証：風熱襲肺・虚火上炎

治則：疏散風熱・滋陰降火

取穴：迎香——疏散風熱・瀉口鼻之火

魚際——疏散風熱・降肺平喘

肺俞——疏散風熱・調理肺気

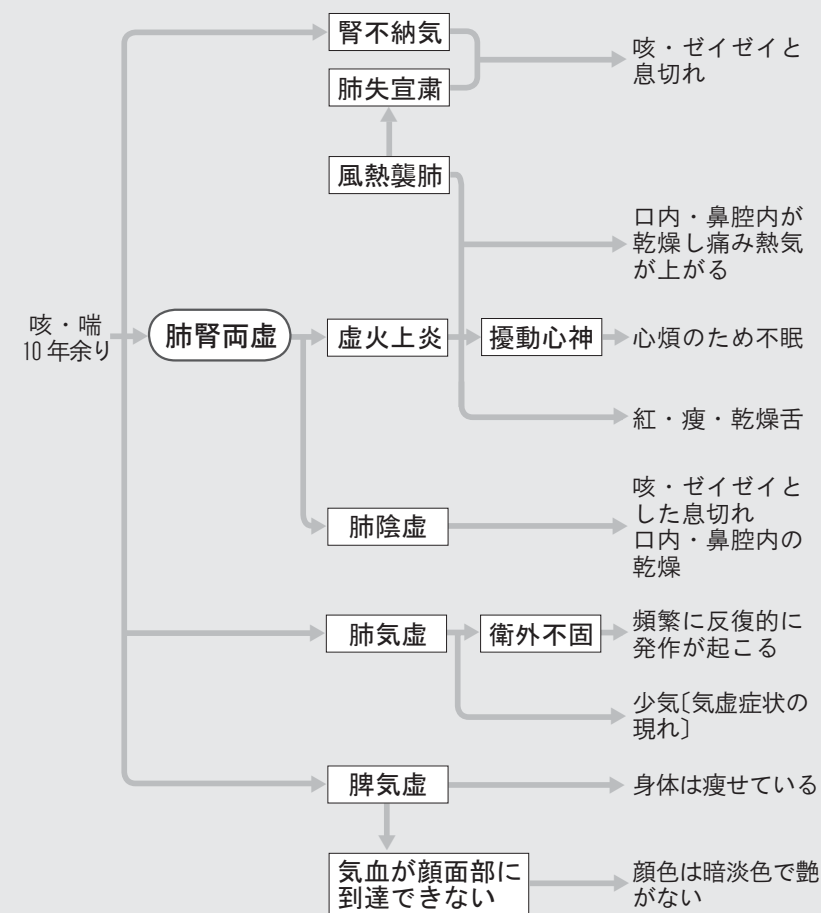
風門

太谿——滋陰降火

治療方法：肺俞・風門には毫針を得気する程度に浅刺し、置針はせずに抜針後、血液を1滴絞り出す。太谿は毫針で刺入時、針のひびきを足底まで届かせる。その他の経穴は瀉法で5分置針（迎香は抜針後自然に血液を何滴か出血させる）。

治療経過：抜針後、患者の主訴である口内・鼻腔内の乾燥した痛み、熱感を帯びていた症状が明らかに軽減した。心煩も治まった。翌日再診し、前日と同じ治療に加え照海にも刺針したところ、口内・鼻腔内の乾燥がさらに軽減した。4回の治療ですべての主たる症状は消失した。

病因病機の分析



図の 説明

- ◇咳・喘を10年余り患い、久病から肺腎両虚*になる。腎気が虚弱なために腎不納気*となり、さらに風熱の邪によって肺の宣散・粛降の機能が失調し、咳とゼイゼイと息切れする症状が現れる。
- ◇さらに風熱の邪が肺を襲い（風熱襲肺*）、症状が悪化する。風熱の邪の影響で口内・鼻腔内が乾燥して痛み、熱感を帯び、紅・瘦・乾燥舌を示す。
- ◇肺陰虚*で陰液が不足して肺が潤わず、そのために清肅機能が失調し、気逆になり咳が起こる。同時に口内・鼻腔内も潤わず乾燥する。
- ◇虚火が上昇する（虚火上炎*）と心神が攪乱され（擾動心神*）、心煩が起こる。心煩のために不眠を引き起こす。
- ◇肺気虚*のために衛外不固*となり、腠理が緩むと邪気が侵入しやすくなり、頻繁に反復的に咳・喘が起こる。
- ◇脾気虚*により消化吸収機能が弱まり、身体は痩せ、脾の運化作用が失調すると、気血が顔面部にまで到達できず、顔色が暗灰色で艶がなくなる。

症例4

胃痛

（十二指腸潰瘍・慢性びらん性胃炎）

患者：22歳・男性

症状

現症：胃上部付近に鈍痛が現れて1カ月余りになる。随伴症状は、不眠・食欲不振・無力感。胃カメラ検査の結果、十二指腸球部後壁に0.5×1.0cmの潰瘍が見つかった。胃粘膜にも中程度の炎症が認められる。

脈診：沈細脈

舌診：白苔

治療

弁証：脾胃虚弱

治則：健脾益胃

取穴：中脘 — 從陰引陽 — 補益脾胃
章門 — 從陽治陽 —
脾俞 —
胃俞 —
足三里 — 和胃健脾・昇清降濁
三陰交 —

治療方法：毫針で1日おきに刺針し、取穴したすべてに補法を加える。

治療経過：20回余りの針治療を経て諸症状は消失した。舌苔・脈状ともに正常になる。胃カメラの再検査を受けたが、潰瘍部分は治癒し、胃粘膜の炎症もごく軽度の炎症が認められるぐらいにまで回復した。